

矢板式係船岸の設計計算 Ver.5

普通矢板式、自立矢板式係船岸の設計計算プログラム

プログラム価格
¥369,600
(税抜¥336,000)

Windows 10/11 対応

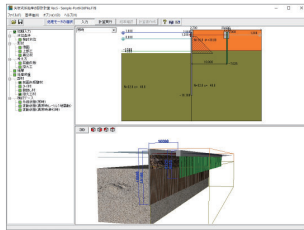
3DA対応

電子納品 3D PDF
体験セミナー

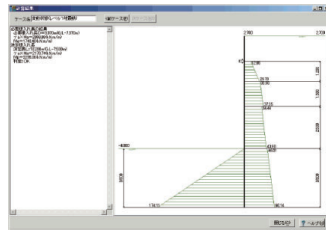
「港湾施設の技術上の基準・同解説」、「漁港・漁場の施設の設計の手引」、「漁港・漁場の施設の設計参考図書」「災害復旧工事の設計要領」準拠。前面矢板壁の壁体種類は、鋼矢板、鋼管矢板、控え工は直杭式、矢板式、組杭式に対応しています。

- 検討ケース：常時、レベル1地震時、牽引時、津波引き波時、それぞれに異なる水位の設定が可能
- 照査項目：フリーアースサポート法(仮想ばり法)、たわみ曲線法、ロウの方法による前面矢板壁の検討
- 鋼矢板の低減係数の自動決定対応
- 控え直杭、控え矢板：港湾基準では港研方式、漁港基準ではチャンの方法で検討。組杭は軸方向支持力のみで抵抗するという考え方で支持力検討、断面照査
- 3Dアニメーションに対応
- 災害復旧工事基準(平成27年)における控え工の計算に対応(控え工型式：控え直杭、控え組杭、控え矢板)
- 道路橋方書・同解説IV下部構造編における横方向地盤反力係数の算出に対応

▼メインウィンドウ



▼フリーアースサポート結果



直杭式横棧橋の設計計算

「港湾基準」、「漁港基準」に準拠した棧橋の性能照査プログラム

プログラム価格
¥427,900
(税抜¥389,000)

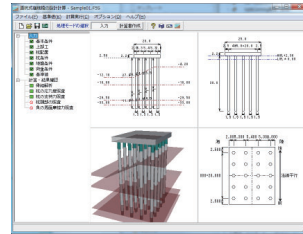
Windows 10/11 対応

電子納品 3D PDF
体験セミナー

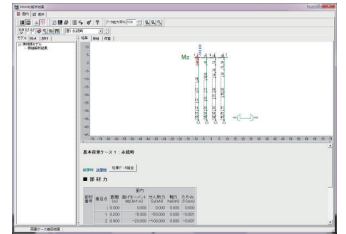
港湾施設の技術上の基準・同解説(H19年7月)、港湾構造物設計事例集(H19年3月)、鋼管杭—その設計と施工(H21年4月)、漁港・漁場構造物設計計算例(H16年)を参考とした棧橋の計算を行うプログラム。

- 主に棧橋の性能照査(杭の応力・杭の支持力に関する照査)の解析をサポート
- 杭頭部の照査、負の周面摩擦力の照査も可能
- 上部工と基礎全体でモデル化、横方向地盤反力係数(1500・Nと直接指定)による影響を地盤バネとして考慮して骨組構造解析
- 杭基礎：鋼管杭、杭径の変化に対応
- 腐食食の自動計算に対応
- 港湾基準による部分係数は直接指定した値で検討可能
- 検討ケース：永続時、接岸時、牽引時、作業時、暴風時、レベル1地震時、レベル1地震時(クレーン考慮)
- 杭体の応力照査、支持力照査、杭頭部の照査、負の周面摩擦力照査に対応
- 計算書作成及び計算結果のファイル出力(Word、テキスト、HTML)が可能

▼メインウィンドウ



▼FRAME解析結果



重力式係船岸の設計計算

「港湾基準」、「漁港基準」に準拠した重力式係船岸の設計計算プログラム

プログラム価格
¥312,400
(税抜¥284,000)

Windows 10/11 対応

電子納品 3D PDF
体験セミナー

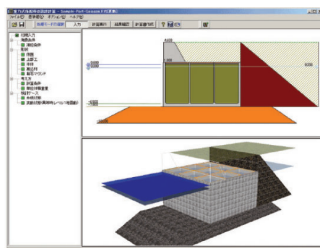
「港湾施設の技術上の基準・同解説」、「漁港・漁場の施設の設計の手引」に準拠した重力式係船岸の設計計算プログラム。対象構造形式は、ケーソン式、セルラーブロック式、ブロック積式で、主な計算内容は、滑动、転倒、支持力照査となります。

- 対象構造形式：ケーソン式、セルラーブロック式、ブロック積式
- 検討ケース：永続状態、変動状態(L1地震時)
- 牽引力の作用は永続状態(常時)扱
- 変動状態(地震時)の検討では、動水圧を考慮可能
- 上載荷重の荷重範囲：上部工含む、パラペッド部除く、上部工除くから選択
- 捨石マウンド形状：マウンドなし、上段のみ、下段のみ、上下段のをサポート
- 裏込材は2段形状まで
- 港湾基準における部分係数に対応
- 設計計算：壁体の滑动、転倒、基礎地盤の支持力の照査

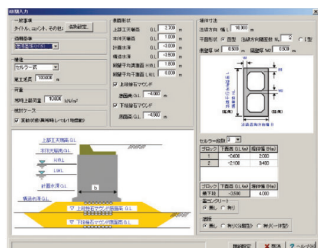
適用基準

1. 港湾施設の技術上の基準・同解説 H19年9月 日本港湾協会
2. 漁港・漁場の施設の設計の手引 2003年度版 全国漁港漁場協会

▼メインウィンドウ



▼初期入力



防潮堤・護岸の設計計算 Ver.3

重力式、扶壁式、突形式に対応した防潮堤の設計計算プログラム

プログラム価格
¥369,600
(税抜¥336,000)

Windows 10/11 対応

電子納品 3D PDF
体験セミナー

海岸保全施設の技術上の規準・同解説(H16年6月)に準拠した防潮堤の設計計算プログラムです。対象構造形式は、直立壁タイプの重力式、扶壁式、突形式(L形式含む)などです。

- 構造形式：堤防・護岸工、胸壁工
- 型式：重力式、扶壁式、突形式(L型を含む)
- 設計計算：壁体の滑动、転倒、基礎地盤の支持力の照査、波返し工の断面照査
- 検討ケース：陸→海：永続状態(常時)、変動状態(地震時、波の谷作用時)
- 検討ケース：海→陸：変動状態(波の峰作用時)、偶発状態(津波作用時)

Ver.3 改訂内容

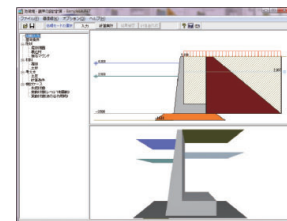
2022年3月23日リリース

1. 港湾施設の技術上の基準・同解説 平成30年に対応
2. 基礎捨石底面における地盤反力の直接指定に対応
3. 3Dアニメーション/3Dアトリビュート表示に対応

適用基準及び参考文献

1. 港湾施設の技術上の基準・同解説 H19年9月 日本港湾協会
2. 漁港・漁場の施設の設計の手引 2003年度版 全国漁港漁場協会
3. 漁港・漁場構造物設計計算例 H16年新刊 全国漁港漁場協会
4. 海岸保全施設の技術上の規準・同解説 H16年6月 海岸保全施設技術研究会編
5. 海岸施設設計便覧 2000年度 土木学会
6. 港湾構造物設計事例集(H19年改訂版) H19年3月 沿岸技術研究センター
7. 防波堤の耐津波設計ガイドライン H25年9月 国土交通省 港湾局

▼メインウィンドウ



▼捨石マウンド

